

- 8) Schenck CH, Mahowald MW. Parasomnias : managing bizarre sleep-related behavior disorders. Postgrad Med 2000 ; 107 : 145-56.
- 9) Quigley EM. Gastrointestinal dysfunction in Parkinson's disease. Semin Neurol 1996 ; 16 : 245-50
- 10) Bassotti G, Germani U, Pagliaricci S et al. Esophageal manometric abnormalities in Parkinson's disease. Dysphagia 1998 ; 13 : 28-31.
- 11) Ford B, Louis ED, Greene P et al. Oral and genital pain syndromes in Parkinson's disease. Mov Disord 1996 ; 11 : 421-6.
- 12) Toda K, Harada T, Ishizuka F et al. Parkinson disease patient with fibromyalgia : A case report. Parkinsonism Relat Disord 2007 ; 13 : 312-4.
- 13) 西岡久寿樹. 線維筋痛症の現状と問題点. 日内会誌 96 ; 10 : 2235-40.
- 14) Holman AJ, Myers RR. A randomized, double-blind, placebo-controlled trial of pramipexole. A dopamine agonist, in patients with fibromyalgia receiving concomitant medications. Arthritis Rheum 2005 ; 52 : 2495-504.

今月の 用語

隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【市中肺炎】 英 community acquired pneumonia (CAP)

〈解説〉 一般社会生活を送っている人にみられる肺炎で、市井肺炎、院外肺炎とも呼ばれる。入院中の患者に合併する下記の内肺炎が問題になったことから、これまで単に肺炎と呼んでいたものをわざわざこのように呼ぶようになったものである。英文表記はだれにでもわかるが、日本語表記では意味がわかりにくい。漢字をならべると熟語ができる日本語の便利さが災いしている感がある。

宿主としては健全な社会生活を営んでいる健康人のみならず、高齢者あるいは種々の基礎疾患（糖尿病、膠原病、ステロイド薬投与中など）を有している人々も含まれる。原因微生物が判明する率は必ずしも高くないが、細菌性肺炎が最も多く、ついでマイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎、ウイルス性肺炎などの異型（非定型）肺炎がある。

内外にいくつかのガイドラインがあり、診断、重症度の判定、外来・入院治療の判断などを示している。本号でみられる A-DROP はわが国で創案された重症度分類で、Age, Dehydration, Respiratory failure, Orientation disturbance, blood Pressure でスコア化して「軽症」、「中等症」、「重症」、「超重症」の4段階にわけ、これをもとに外来治療、入院治療、ICU入室の選り分けを行おうというものである。

〈関連学会〉 日本呼吸器学会

【院内肺炎】 英 hospital acquired (nosocomial) pneumonia (HAP)

〈解説〉 入院後48時間以上経てから発症した肺炎で、入院時すでに感染していたものを除く。ただし、レジオネラ肺炎では潜伏期が2-10日と比較的長いので、入院後9日以内に発症した場合は慎重に判断する。

誘因として全身ないし局所性因子による易感染性があり、感染経路として給湯系など環境要因によるものなどもある。市中肺炎に比べて日和見感染が多く、病原微生物同定の重要性が増す。検出される原因微生物としては、慢性呼吸器疾患を有するものでは緑膿菌、インフルエンザ菌、クレブシエラ菌、黄色ブドウ球菌などが多く、ICU入院患者や手術後患者では長期臥床や人工呼吸器管理による誤嚥性肺炎が多く、菌種としては嫌気性菌、MRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）、緑膿菌などが多い。

〈関連学会〉 日本呼吸器学会

（四元秀毅）